

(様式1)

校 種	小・中 どちらかに○	学校番号	2 4	学校名	宇都宮市立平石北小学校
-----	---------------	------	-----	-----	-------------

令和4年度 学校経営計画

1 教育目標

(1) 基本目標

心身ともに健康で、自ら考え主体的に行動し、徳・知・体の調和のとれた人間性豊かで
たくましく生きる児童を育成する。 ～ 心ゆたかで かしく たくましく ～

(2) 具体目標（具体的な児童生徒像など）

目指す子ども像	育てたい能力・態度	今年度の目標（重点）
思いやりがあり 協力し合える子 (心ゆたかで)	豊かな心，共生の心	・ 基本的生活習慣の定着と規範意識の育成 ・ 望ましい集団づくり（いじめのない温かな人間関係づくり・豊かな体験活動やふれあい活動の充実） ・ 自己有用感の育成
進んで学び自ら 考える子 (かしこく)	学ぶ意欲， 問題発見・解決能力	・ 基礎・基本の確実な習得と個に応じた指導の充実 ・ 授業力向上（楽しい・わかる・できる授業の実現） ・ 読書活動の充実 ・ 学習規律の確立と家庭学習の習慣化
心と体をきたえ る子 (たくましく)	気力，健康・体力	・ 家庭と連携した望ましい食習慣の育成 ・ 健康・体力の育成（教科体育の充実と運動に親しむ態度の育成） ・ 安全意識の高揚と安全への判断力の向上

2 学校経営の理念

— 楽しく「学び」・勇気をもって「チャレンジし」・みんなで「支え合う」

活気ある学校経営の推進 —

3 学校経営の方針

(1) 目指す学校の姿（本校の使命）： 「活気あふれる地域の学校」

児童と保護者と地域の思いを大切にし、地域の教育資源の有効活用を図りながら、創意工夫のある教育活動を目指す。

- ①夢や意欲がもてる学校 ②心豊かで思いやりのある児童が育つ学校
③互いの個性やチャレンジを認め合える学校 ④保護者・地域から信頼される魅力のある学校

(2) 目指す教職員像

教職員が意欲的に勤務するために、自分の職種を自覚し各自がキャリアアップを目指すとともに、校務分掌の見直しや会議のスリム化等をすることで、業務の効率化を図り、学校として組織力を高める。

- ①自己のキャリアを高めようとする意識の高い教職員
②人間性・社会性豊かで信頼される教職員（学校スタッフとの連携）
③学校組織の一員として学びあい、協働し支え合う教職員

(3) 「平北プロジェクト」（本校教育の重点）の策定と全職員の参画による実践推進

プロジェクト1「さわやか生活プロジェクト」（心ゆたかで）：いじめのない温かな人間関係の構築

プロジェクト2「いきいき勉強プロジェクト」(かしこく): 学校課題の推進

プロジェクト3「すくすく体プロジェクト」(たくましく): 健康な体作りと食育

プロジェクト4「地域から学ぼうプロジェクト」(特色ある学校づくり): 地域との連携

[鬼怒地域学校園教育ビジョン]

自分でよく考え 未来に向かって たくましく生きる子供の育成

4 教育課程編成の方針

社会に開かれた教育編成のため、カリキュラムマネジメントの視点から、一貫性、相互関連性のある教育課程・各種年間指導計画を作成し、教育活動を展開する。

- ① 各教科の教育内容を相互関係でとらえ、教科横断的な視点で内容を組織的に配列する。
- ② 子供たちの姿や地域の現状に基づき、教育課程をPDCAサイクルで実施改善する。
- ③ 小規模校の特性を生かし、教育内容と地域等の外部も含めた人的・物的な資源を効果的に組み合わせる。(各種ボランティア・平北ファーム・高齢者との交流活動 等)

5 今年度の重点目標(「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○)

(1) 学校運営

- ・学校マネジメントシステムを生かした活気あふれる地域の学校づくりの推進
- ・育てたい児童の姿を明確にした教育活動の充実
- ・勤務の効率化を意識した働き方の推進
- ・教職員一人一人のキャリアアップと高い同僚性を十分に生かした組織力の向上

(2) 学習指導

- ・基礎・基本を確実に習得し、それらを活用する力の育成
～楽しい・わかる・できる授業の実現～ に協働して取り組む

(3) 児童生徒指導

- ・互いを認め合い、励まし合う指導を通した、自己有用感の育成
- ・規範意識を高め、多様性を認めて支え合える集団の形成

(4) 健康(体力・保健・食育・安全)

- ・自ら進んで安全な生活を送り、心と身体の健康づくりに取り組む児童の育成

6 学習指導、児童生徒指導、健康(体力・保健・食育・安全)に関する取組

※ 様式2～4参照

7 特色ある学校づくり等に関する取組

(1) 育てたい資質・能力

「地域や自然を愛する心を持ち、社会性を身に付けた子どもの育成」

- ① 地域の自然や人材、施設を教育活動に積極的に活用し、生命尊重の精神や豊かな心、集団や社会の一員として大切な態度などを育成する。
- ② 地域との多様な交流を通して、自分を見つめるとともに、自己の生き方を考えさせる。
- ③ 地域での体験活動等を通した学習により、主体的に学ぶ力と学ぶことの楽しさや成就感を体得させる。

(2) 具体的取組(提案型予算「頑張る学校プロジェクト」に関する取組には文頭に◇)

- ア「生命を尊重する心」や「豊かな心」を育てるための教育活動の充実
- ◇・教科…積極的な出前授業・地域人材活用授業や地域素材の教材化

- ・ 特別の教科 道徳…心に響く教材を工夫し、考え議論する道徳授業の実践
- ・ 学校行事・児童会活動…学校農園活動・地域の福祉施設とのふれあい活動
- ・ 総合的な学習の時間…身近な地域を知り、日本・世界へ関心を高める学習

自分のよさを知り、生き方を考える学習

- ・ 宇都宮学…地域資源・教材を活用した、郷土の愛着を育むための指導の充実
- ・ GIGA スクール構想の実現を目指したプログラミング教育の実践・各教科等の指導における ICT の効果的な活用
- ・ なかよし班活動…縦割り班による清掃や給食、行事や遊びによる活動
- ・ 読書活動…豊かな感性を育てるための読書活動の充実・読み聞かせボランティアの活用

イ 生命尊重の心を育てる植物の栽培活動の実践

- ・ 学校農園や教材園における作物栽培（全学年 学校行事・生活科・理科）

ウ 特色ある学校づくりについての地域への啓発及び協力依頼

- ・ 学校便りや学年便り等各種便り、ホームページによる発信 学校公開日の設定

エ 潤いのある美しい環境の充実・校内環境整備の工夫と充実

◇・地域ボランティアと共に活動する「花いっぱい運動」の実践（美化委員会活動・生活科）

オ 地域との交流の促進

- ・ 教育活動の成果発表 運動会・P T A文化祭・地域行事への参加

◇・地域の施設（高砂荘）訪問での発表・体験活動（総合的な学習の時間）

◇・地域の方の協力による体験活動、米作り等（生活科・総合的な学習の時間）

- ・ 地域学校園内の円滑な交流活動の推進（特別支援学級交流活動）

- ・ 地域等の大人から生き方や職業を学ぶ学習・「生き方講演会」（キャリア教育との関連）

◇カ 生活科や総合的な学習、社会科の中で、横断的に「宇都宮学」との関連を図る。

8 本市の重点施策・事業との関連

（１） 地域とともにある学校づくり（「魅力ある学校づくり地域協議会」との連携・協働を含む）

①基本的考え

本地区は、保護者はもとより祖父母等の家族が代々本校出身である家庭も多く、学校によせる地域の期待や思いはことのほか大きい。そのような中で学校が積極的に情報を発信し学校経営の意図や方向性、児童の活動や頑張りの様子を伝えることが大切と考える。特に、地域協議会構成員の積極的な教育活動への参画を促していきたい。

②主な取組

- ・ 学校便りや各種便り、ホームページの活用、公開日の授業参観実施による積極的な情報の発信
- ・ 地域協議会ボランティアによる体験活動（学校農園活動・米作り・昔遊び体験 等）
- ・ 地域の施設（高砂荘）訪問での発表・体験活動

（２） 小中一貫教育・地域学校園

①基本的考え

児童や生徒の実態を踏まえて、さらなる基礎学力の向上を図るとともにじっくり考え、伝えあう力を育てる。また、特別支援学級の連携、及び通常学級における特別な配慮を要する児童・生徒についての情報交換をもとに、一人一人に寄り添った指導を心がける。

②主な取組

- ・ 児童一人一人のよさを認め励ますことで、自信や自己有用感を高める指導

- ・「めあて」の効果的な提示とふり返りの時間の工夫，自分の考えを書く活動と説明や話し合いを関連づけた指導
- ・授業の約束・準備や着席，良い返事や言葉づかい等の学習規律の確立
- ・望ましい生活習慣の定着に向けた指導と，「ひらきたよい子の1日チェックリスト」の活用
- ・学習と生活に関する「プロジェクトチーム」による評価とマネジメント
- ・一人一授業を通じた教師の授業力の向上

(3) 不登校対策

①基本的考え

本地域学校園にとって「不登校対策」は大きな課題である。不登校傾向や行き渋り等が見られる児童に対しては，登校できている間の関わりや支援を重視し，新たな不登校を生まないために全職員による組織的な対応と家庭との連携を進めていきたい。

②主な取組

- ・基本的な対応「1日休んだら電話連絡 2日続けて休んだら家庭訪問」の徹底
- ・児童の自己肯定感を高め，互いを認め合うような居心地の良い学級づくりを進める
- ・「欠席状況共有シート」やQU等を活用して客観的情報の共有化を図り，PDCAサイクルを意識した組織的・継続的な支援を行う。
- ・SCの活用や，保護者との情報や支援策の共有による連携を図る。必要に応じて小中合同のケース会議を開く。

(4) GIGA スクール構想

①基本的考え

教育活動を進める上で必要な様々な情報の多くはデータ化されている。それらの情報を効果的に正しく活用するための目的や方法を正しく学び，日々変化していく環境に適応する力を身に付ける。

②主な取組

- ・GIGA スクール構想の目的や教育活動への取組に関して，教職員の研修を実施する。
- ・プログラミング教育やICT活用の見直しを実施し，教科・領域の年計に位置付ける。
- ・一人一授業等に位置付け，適宜検証していく。
- ・ICT環境を整えるとともに，授業外においても1人1台端末を有効活用して家庭学習に取り入れたり授業参観時に公開したりするなど，機会をとらえて保護者や地域に説明していく。
- ・情報モラルに関しては，「情報モラル教育年間指導計画」に基づき，教職員がまず研修を行うこと，外部講師などを積極的に活用すること，全学年でモラル教育を行うことなどとともに，児童指導を徹底する。そして，より良い情報の使い手となるための教育を，体系的・継続的に行う。

(5) 宇都宮学

①基本的考え

本校の特色である地域を学び地域を愛する活動と関連付けながら，郷土宇都宮の歴史や伝統文化，産業などについて理解し，郷土への愛情と誇りを持てるようにする。

②主な取組

- ・3・4年生は「宇都宮学」を社会科と5・6年生では「総合的な学習」と関連付けた授業を行い，それぞれの年計に位置付ける。
- ・5年生の学習では，3・4年生の既習事項を踏まえ，テーマに沿ってより深く学習する。
- ・6年生では宇都宮の伝統について，ボランティアや出前授業などを取り入れ，郷土料理や黄ブナづくりなどの体験学習や講話や民話を聴く機会を作る。